

アイベック

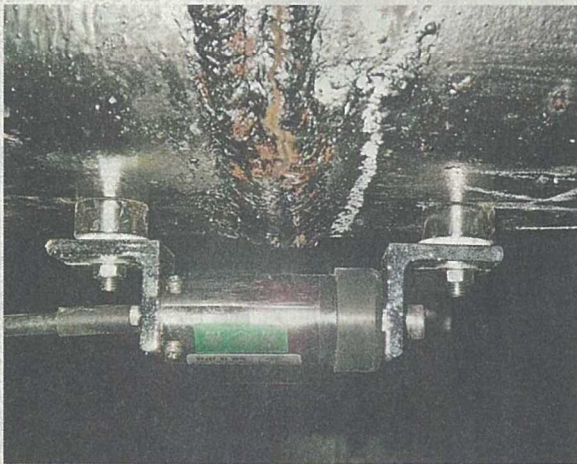
橋の亀裂情報自動取得

開発システム普及拡大へ

検査業務のアイベック(富山市上野新町、吉岡裕一社長)は、橋や道路など社会インフラの長寿命化対策が求められる中、自社開発したインターネット対応モニタリングシステム(IMS)の普及拡大を図る。老朽化した橋脚などの亀裂や、原因として考えられる温度変化や振動などの数値を24時間、自動的に取得できるシステム。コンサルタント業者や自社のコンサル部門を通じて国や自治体、セネコンなどに提案する。

(経済部次長・高松剛)

アイベックは建造物の強度や亀裂、ひずみなどを調べる非破壊検査業務を主力に、大型構造物に対する補修コンサル業務なども手掛けている。2012年12月の中央自動車道笹子トンネル(山梨)の天井板崩落事故をきっかけに、社会インフラの老朽化への危機感が高まっている。長寿命化に向けた対策には、亀



橋の下部に取り付けられた亀裂変位センサー

裂やひずみの要因を分析する必要のある半面、長期間にわたって人手で監視することは難しいという課題があった。IMSでは、遠隔地における観測データを携帯電話回線で管理し、パソコンやスマートフォンなどで確認できる。コンクリート橋脚などに、ひずみや亀裂、振動、温度など顧客が求めるデータを取得す

るセンサーを取り付け、得られたデータをサーバに送信。保守担当者らはデータの確認のほか、亀裂などが一定数値を超えた場合は連絡を受けることも可能という。複数のデータを一つのグラフにまとめることで、さまざまな事象の関連性が明らかに、より効果的な対策を講じることが見込める。これま

で、関東や四国地方の国道で試験的に設置。実績を踏まえて有用性をアピールし、提案を強化する考えだ。